

静岡県新型コロナウイルス感染症医療専門家会議（第2回）からの提言

7月下旬より新型コロナ患者数がこれまでになく急激に増加したことを受け、県内の新型コロナ受入病床の状況は非常に厳しいものとなっています。

現在、ほぼ連日100人台の新規感染者が発生しており、人口10万人あたりの1週間の新規感染者数は25を越え、全療養者数も1,300人に達し、国の感染状況のステージⅣに相当しています。この未曾有の感染拡大により、県全体の病床利用率は40%に迫り、東部地域は60%に届こうとしています。

このような医療現場の強いひっ迫状況を踏まえて、8月4日開催の第16回県感染症対策専門家会議で出されたコロナ医療の提供体制整備に関する諸意見を、翌5日開催の第2回県医療専門家会議で協議し、提言として下記にまとめました。

記

1. 更なる重症病床の確保
2. 現在、入院患者を受け入れていない病院での入院患者の受入促進
3. 疑い患者用の病床について、可能な範囲で陽性患者用の病床に転換
4. 入院患者について、病状が安定していれば隔離期間であっても医師が退院可能と判断した場合は、後方支援病院への転院や宿泊施設や自宅での療養を促進
5. 既存の宿泊療養施設について、地域の医療機関と連携し療養体制を強化
6. 新規の宿泊療養施設について、未設置医療圏域への設置を検討
7. 自宅療養者について、地域の診療所による診療体制の充実